

# 東京女子大学

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

## 「20 世紀日本における知識人と教養

—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」

## 外部評価報告書

2017 年 3 月

「20 世紀日本における知識人と教養

—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」 外部評価委員会

## I. 外部評価委員名簿

くりはら あきら  
栗原 彬 氏

立教大学名誉教授

さとう しんいち  
佐藤 慎一氏

東京大学名誉教授

よしみ しゅんや  
吉見 俊哉氏

東京大学大学院教授

## II. 面談調査日程

2017 年 2 月 20 日 (月) 13 時～16 時

於 東京女子大学

2017年 3月 14日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」に対する評価結果

外部評価委員 栗原 彬

### 【総 評】

本プロジェクトは、世界的な知の危機の時代に、「教養と知」への深い志をもって、周知な研究体制と綿密な事業計画の下に、精力的に調査研究活動を進めて、「20世紀日本における知識人と教養」および「丸山眞男文庫資料の調査研究とデジタルアーカイブの構築」という研究テーマを達成し、その成果を日本および世界に公開して、21世紀の教養と知のあり方へ、大きな貢献をなされたことを、敬意をもって評価致します。

(優れている点) 本プロジェクトの卓越した成果をポイントだけ。

1. 世界的な視野の中で、丸山に至る近代日本の知識人の系譜を時系列的に論証したこと。
2. 丸山の世界と、世界の同時代の思想との、共時性、交信性、相乗性、相剋性を明らかにしたこと。
3. 丸山の世界観をアジアの知的世界の中に置いて、その相互関係の研究に道を拓き、アジアの知を未来に拓く媒介となる丸山の世界観の潜勢力を照射したこと。
4. 丸山文庫の諸資料の交差によって、丸山の世界観形成過程に光を当てることができるようになったこと。
5. デジタルアーカイブの構築と共に、丸山の「思想空間」の中に身を置く「場所」の構築が行われて、政治思想、比較思想、教養、芸術・文化研究など、広範な知的世界への探求の道を拓いたこと。(デジタルとアナログの統合)。

(努力課題) 外部評価委員の希望として

1. 人類の存亡に関わる精神史を遠望しながら、教養と教養教育について調査研究を継続して、教養(教育)をめぐる根源的な思考とアクチュアルな提案を世界に発信していくこと。
2. 「丸山の世界観とフェミニズム」といった研究にすでに部分的に進められているように、「戦後日本の持続する問題」と丸山の世界観とを交差させる研究を更に進めること。
3. 本学のこの「場所」を、内外の研究者のみならず、広く知の探求を志すひとびとにも開いて頂きたい。
4. 加藤周一文庫と連携して、比較思想・比較文化の共同研究プロジェクトとして、何ができるか。時間をかけて取り組んで頂きたい。

2017年 2月 24日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」に対する評価結果

外部評価委員 佐藤 慎一

### 【総 評】

丸山眞男の蔵書や草稿類は、「日本国民（もしくは人類）共有の知的資産」というべき公共性の高いもので、受け入れた東京女子大学は、それらを安全に管理することに加え、広く国民（もしくは人類）の利活用に供するという、大きな責任を負っている。丸山の蔵書や草稿を生かすためには、丸山の学問に関心を持つ国内外の人々が接近できる「開かれた」体制を構築する必要があるが、安全管理という課題と「開かれた体制」の構築という課題を共に達成することは、決して容易なことではない。今回の外部評価において私は、東京女子大学が丸山眞男文庫の運用において、ふたつの課題をどのようにしてどの程度達成しているのかという観点を中心にして、丸山眞男文庫の過去の活動実績および現在の活動状況を点検した。結論から言えば、「優れている点」で述べるように、丸山眞男文庫が多くの優れた実績をあげつつ、ふたつの課題を十分に達成していることを確認した。その達成水準は、私の予想や期待をはるかに超えるものであった。

他方で、「努力課題」で述べるように、今後達成すべき課題も少なからず存在する。ただし、それらの多くは、やり残した課題というよりは、丸山文庫が発展する中で新たに生まれてきた課題であり、むしろ丸山文庫の活性度を示すもののように私には思われる。

#### （優れている点）

以下の3点が「優れている点」として特に強く印象に残った。

第一に、そして最も強く印象に残った成果が、丸山の草稿類のデジタルアーカイブ化である。全世界の人々が、インターネットを使って、草稿の実物に触れることなく草稿類を利用できるようになったわけで、これによって、貴重な資料の安全管理という課題と「開かれた体制」の構築という課題は、ともに見事に達成された。

これまでは、活字化された文章を通してしか丸山の思想を検討することができなかったが、活字化以前の草稿類がデジタルアーカイブ化されたおかげで、今後は、活字化に至るまでの丸山の思考の道筋を辿り、彼の出した結論をその形成過程に即して一層内在的に理解できるようになる。このことは、丸山理解に新たな可能性をもたらすはずである。

第二に、丸山眞男文庫を軸とする研究者ネットワークの構築も高く評価できる。丸山眞男の著作が生きた古典として将来も読み継がれるためには、丸山眞男の再解釈が繰り返し試みられ、新たな丸山眞男像が継続的に提示される必要があるが、研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用」に集められた19名の研究者（東京女子大学教員8名、国内他大学教員9名、海外研究者2名）は、多様な分野にまたがる優れた研究者であり、彼らが丸山眞男文庫の諸資料を駆使して研究

を行えば、従来と異なる新たな丸山眞男解釈が生み出される可能性がある。

第三に、各種草稿類の中で完成度や資料的価値の高いものを選び、厳密な校訂を経て信頼できるテキストを作成し活字化した『丸山眞男集 別集』の公刊も、きわめて重要な成果である。全五巻のうちの未完の二巻には、丸山が最も力を入れ、未完に終わった「正統と異端」の草稿が収録される予定と聞く。それが刊行された場合の価値は計り知れない。

#### (努力課題)

以下の3点が「努力課題」として残されていると感じた。

第一は、丸山眞男文庫を中核とした研究者ネットワークに、若い世代の研究者を巻き込むことである。上で述べたように、研究者ネットワークの構築そのものは高く評価できるが、参加者の年齢が概して高く、このネットワークがこれからの丸山眞男研究の中核的役割を担い続けるためには、准教授クラスより若い世代の研究者もプロジェクトに巻き込む必要があると感じる。

第二は、丸山眞男に関心を持つ若い世代の育成に貢献することである。現在のところ、丸山眞男文庫はプロの研究者を主たる利用者として想定しているようだが、丸山について関心はあるが十分な知識を持たない若い世代の人々にも目を向け、彼らを丸山眞男文庫の利用者に招き入れて欲しい。若い世代の読者層の存在があってはじめて、丸山に関する書物の出版など、将来に向けた丸山研究の持続的展開が可能となるからである。

そのためには、インターネット世代の若者たちが丸山について知ろうとしたとき、まず丸山眞男文庫のホームページから検索の旅をはじめよう、丸山眞男文庫のホームページを情報量が豊かで魅力的なものにする必要がある。丸山眞男の著作目録や年譜などの基本情報に加え、「丸山眞男論の目録」などの情報を提供すれば、多くの若者が丸山眞男文庫のホームページを閲覧するはずである。

第三に、収集資料の多角化と収集活動の迅速化も重要な努力課題と思われる。収集資料の多角化とは、丸山家から寄贈を受けた蔵書と草稿類以外の新たな資料の収集を、音声資料や映像資料などにも対象を広げて行うことである。収集活動の迅速化とは、そうした資料を所有していると思われる人々が高齢化しつつあることを踏まえ、収集活動を早急に開始することである。

丸山が東京大学で最後の学部ゼミと学部講義を行ったのは東大紛争の最中の1968年度のこと、ゼミに参加した最も若い学生も既に70歳を超えた。旧ゼミ生の中には、丸山眞男からもらった手紙等の資料を大事に保管している者もいるだろうが、彼らの死後、資料の価値を理解しない遺族はそれを廃棄する可能性が高い。いま呼びかければ、貴重な資料を安全に永久保存してくれる丸山文庫に無償で寄贈して下さる方の数は、決して少なくないだろう。

2017年 3月 15日

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」に対する評価結果

外部評価委員 吉見 俊哉

### 【総 評】

膨大な丸山眞男蔵書と書き込みのある資料類、草稿、書簡を収蔵する総合的なアーカイブとして、収蔵されている資料群全体が一つの宇宙を構成しており、これは世界で随一のものであります。本事業は、そのような総合性と卓越性のある貴重な資料群のデジタルアーカイブ化を着実に進めており、すでに大きな成果を生んでいます。今後は、このような成果を基礎に、さらに資料の総合性を生かしたデジタルアーカイブ構築事業へと発展させていただきたいと存じます。すなわち、貴学が図書館に収蔵されている原資料と併せ、世界の近代日本政治思想研究の聖地となっていくことが望まれます。そのためには、図書館に収蔵されている図書、資料群と、デジタルアーカイブ化された手書きの文書や図書への書き込み、さらには書簡類までを、デジタル形式で統合的に関連付けていくことが不可欠です。活字資料については、OCRでの高精度の機械解読が可能であり、膨大な予算を費やさなくても図書、書き込み、文書資料、書簡などのデジタル形式での一括的なデータ化が可能になりつつあります。国・民間の助成金を積極的に確保しつつ、ぜひ、丸山の全資料が横断的に検索・可視化可能な仕組みの構築に発展させていただきたいと思っております。

#### (優れている点)

膨大な蔵書と書き込みのある資料類、草稿、書簡を保持する総合アーカイブとして、収蔵資料全体が一つの宇宙を構成しており、これは世界で随一のものであります。本事業を、この総合性を生かしたデジタルアーカイブ構築に発展させていくことにより、貴学は世界の近代日本政治思想研究の聖地となっていくでしょう。特に、大量の書簡をアーカイブ化していくことで、丸山の思想の展開を知識人のコミュニケーション・ネットワークの中に実証的に位置づけ直すことや、書き込みのある資料群の解析により、丸山の思考の結果ではなく思考のプロセス自体を可視化していくことが可能になるなど、本プロジェクトは国際的な思想史研究にデジタルアーカイブを活用する可能性は大きく広がっています。図書資料も含めた横断的な検索機能の充実やデータの英語化など、いくつか重要な課題が残るものの、本事業は思想史とアーカイブ技術が結ばれる先駆的な例となり得るものであります。

#### (努力課題)

現状のアーカイブは、活字資料も含め、PDF形式でのアーカイブ化に止まっています。また、書簡や文書資料と丸山の著作をどのようにデジタル形式で結びつけていくのかという

課題も残されているようです。活字のテキストに関しては、OCR 技術がかなり発達してきており、高い精度での機械的解読が可能です。手書きの文書の場合にはメタデータの充実化が必要になってきますが、同時に世界の研究者に開かれたフォーラム的な場を組織することで、研究者に書き込んでもらった情報をメタデータの的に活用していく方法が考えられます。デジタルアーカイブにとって横断的な検索機能の充実が決定的に重要なので、今後の進化を期待しています。また、国際発信もきわめて重要な柱となってくるはずで、すべてのメタデータや表示データの英語化を早急に進めていただきたく存じます。